

この会は平成20年2月に、高橋輝久佐倉稲門会前会長、(観世流能楽師)の主宰で発足しました。この2～3年前から高橋さんは能・謡曲の面白さ、奥行きを、ほとんど門外漢である稲門会のメンバーに機会をとらえては熱情をもって説き、この会の発足にこぎ着けました。この会の活動のテーマは「600年の伝統芸能である能・謡曲とはなにか、どう親しむか」ということです。

このテーマの下で月一回の定例会では、先ず室町時代に能の基本を作った世阿弥が著した「風姿花伝」を高橋さんの講義で学びます。「風姿花伝」は演技論、芸術論として書かれた書物ですが、人生論としても学べます。そして実践として一般的にもよく知られた「鶴亀」「羽衣」「高砂」などの曲目を観世流能楽師の高橋さんが謡い、会員の吾々もそれに倣って謡うという指導もしていただきます。年に2～3回能楽堂での能・狂言の鑑賞会がありますが、その直前の定例会において高橋さんから予習としての演目の解説があり、一部を謡ってもらいます。平成28年の鑑賞会は6月に「菊慈童」、「桜川」そして「鉄輪」、11月に「烏帽子折」です。また、能には平家物語の説話に典拠するものが80曲以上あります。当会では古典文学としての平家物語を吉野幹事が主動して、全員で素読、解釈をしています。全12巻の内、現在清盛死去で第6巻が終わり、第7巻から源平合戦、平家の没落そして都落ちの段に入ります。平家物語はどこから読んでも興味深いです。是非もっと多くの稲門会員の方々の当会への参加をお勧めいたします。

